

Q1

COVID-19を強く疑っている症例で、鼻咽頭ぬぐい液によるPCR検査は陰性でした。COVID-19を否定していいのでしょうか？

>>> 156

Q2

COVID-19は血栓傾向になると言われていますが、本当でしょうか？

>>> 156

Q3

市中肺炎において、重要な合併症にはどのようなものがありますか？

>>> 162

| 特集 |

肺炎診療の ピットフォール

COVID-19から肺炎ミミックまで

企画 | 徳田安春

Q8

人工呼吸器関連肺炎や院内肺炎は診断が難しいのはどうしてでしょうか？

>>> 184

Q10

COVID-19後の人工呼吸器関連肺炎で見られる特徴的な真菌感染症は？

>>> 184

Q11

急性呼吸窮迫症候群（ARDS）と診断すれば、急性呼吸不全の原因としてARDS以外の疾患の関与はないと言えますか？

>>> 188

Q9

人工呼吸器関連肺炎や院内肺炎の標準的な治療期間は、どれくらいになるのでしょうか？

>>> 184

Q12

空洞を呈する肺膿瘍に似た画像を呈するものは何がありますか？

>>> 194

Q4

非定型肺炎の1つである
マイコプラズマ 肺炎にお
いて、治療に難渋する例
はありますか？

>>> 167

Q6

肺 結 核 と 肺NTM (non-
tuberculous mycobacteria :
非結核性抗酸菌) 症の診断・
治療の違いは何でしょうか？

>>> 176

Q5

誤嚥性肺炎ではルー
チンで絶食にすべき
でしょうか？

>>> 172

Q7

未治療のニューモシス
チス肺炎の死亡率は
どれくらいですか？

>>> 180

臨床医学の父 ウィリアム・オスラー先生 (1848-1919) は、「肺炎は老人の友」という言葉を遺した。当時、人間は歳をとって寿命に達した時に肺炎で亡くなる、というのが医学的事実だったからだ。抗生物質がまだ発見される前の時代であった1919年12月、オスラー先生自身、英国オックスフォードの自宅において、肺炎の合併症で亡くなった。

しかしその時代背景を調べてみると、1918年から新型インフルエンザのパンデミックがあり（現代では「スペイン風邪」と呼ばれている）、世界で多数の死者が出ていたのだ。オスラー先生の命を奪った肺炎のトリガーになったのも、インフルエンザだった可能性が高い。

翻って、2019年12月に確認され、現在パンデミックになっている新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)。これによる肺炎は、世界中で多くの人命を奪っている。SARSやMERSでの経験で訓練していた台湾や香港、韓国などを除いて、ほとんどの国の政策担当部門が、このパンデミックに対して後手に回った。そのような状況の中、誠実に患者診療を続けているのが医療者である。医療者は様々な役割を担って、今このパンデミックの最前線に立っている。

本特集では、100年ぶりのパンデミックにおけるジェネラリスト診療の助けになる企画、すなわち「肺炎診療のピットフォール」をテーマに取り上げる。肺炎はCOVID-19の最も重要な病態であるが、多岐にわたる診療ピットフォールがある。それぞれの項目では、ピットフォールCaseの紹介、臨床上的の問題点、診断・治療・予後予測のピットフォール、重要ポイントのまとめの提示をお願いした。

本特集が最前線の医療者の助けになれば幸いである。

Q13

急性期の肺炎と肺血
栓塞栓症は、画像で
どう判断しますか？

>>> 199

Q15

肺炎の診療においてど
のような時に、間質性肺
炎、過敏性肺炎を疑え
ばよいのでしょうか？

>>> 208

Q14

肺の悪性疾患のうち腫
瘍性病変ではなく、浸
潤性病変が主体となる
例はありますか？

>>> 203

Q16

市中肺炎のなかから、
膠原病に伴う肺疾患を
見つける方法は？

>>> 213